

# 米子市事業所アンケート調査結果報告書

令和 7 年 1 2 月

# 目 次

## 米子市事業所アンケート調査結果報告書

### 目 次

1. 調査概要.....	3
2. 調査結果.....	4
3. 課題分析.....	19
4. 調査票.....	23

# 1. 調査概要

## (1) 調査目的

「第10期米子市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定するにあたって、米子市内で日々、介護サービスの最前線でご尽力いただいている事業所の皆様からの現状の課題や専門的なご意見を計画に反映させるため実施しました。

## (2) 調査設計

実施期間：令和7年11月7日（金）～令和7年11月21日（金）

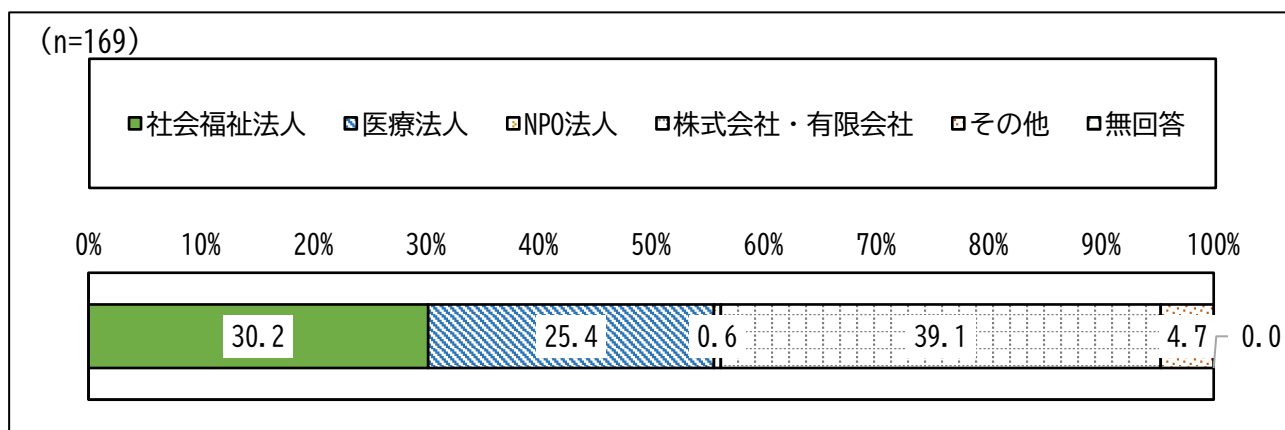
調査の種類	調査対象者、調査方法
高齢者のサービス提供体制の構築に向けた介護事業所アンケート調査	・米子市内でサービス提供をしている介護事業所 ・郵送にて案内を配布、Web回答

## (3) 回収結果

配布数	回収数	回収率
300 社	169 件	56.3%

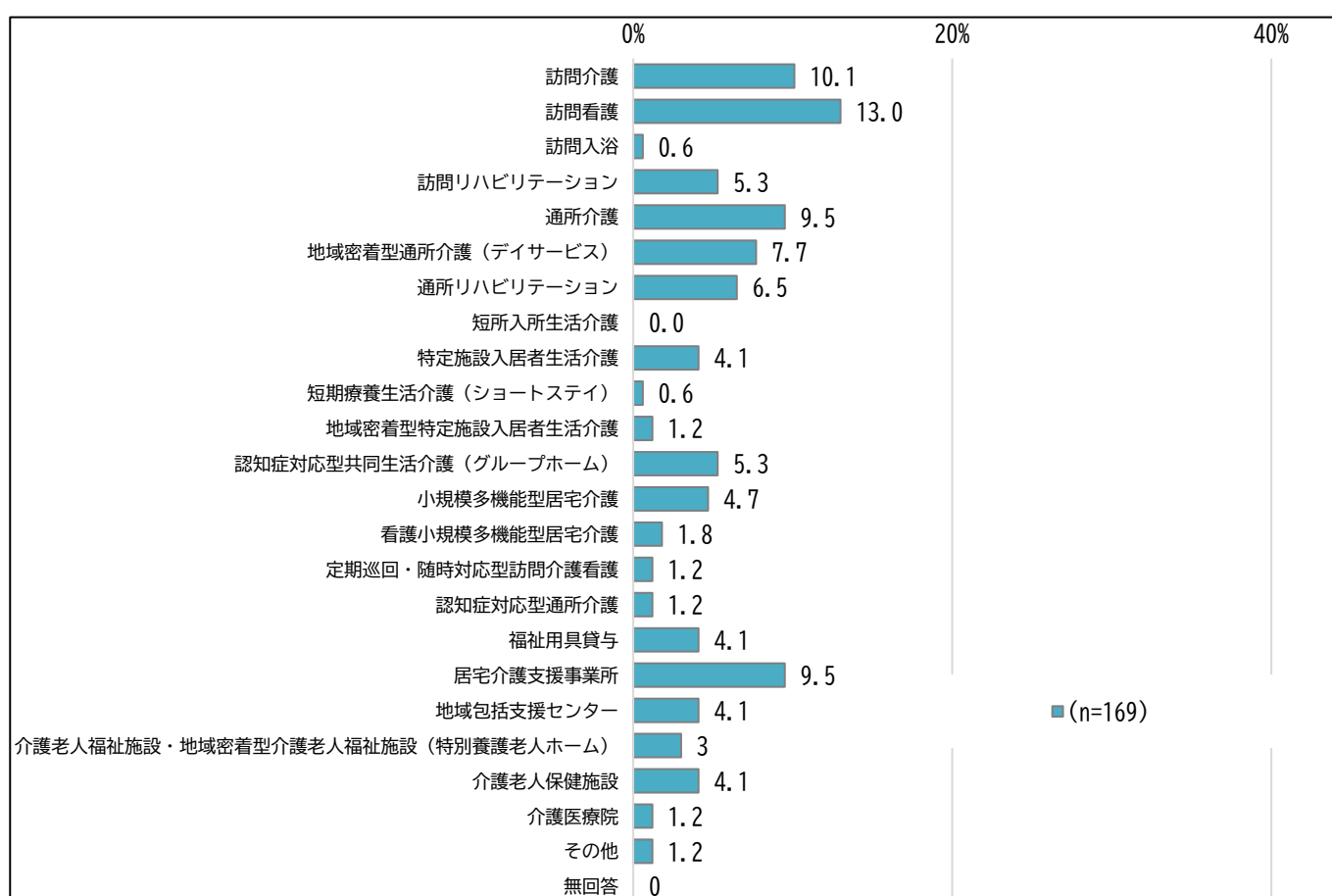
## 2. 調査結果

### 問1 ②法人種別



株式会社・有限会社が39.1%で最も多く、次に社会福祉法人が30.2%、医療法人が25.4%となっています。

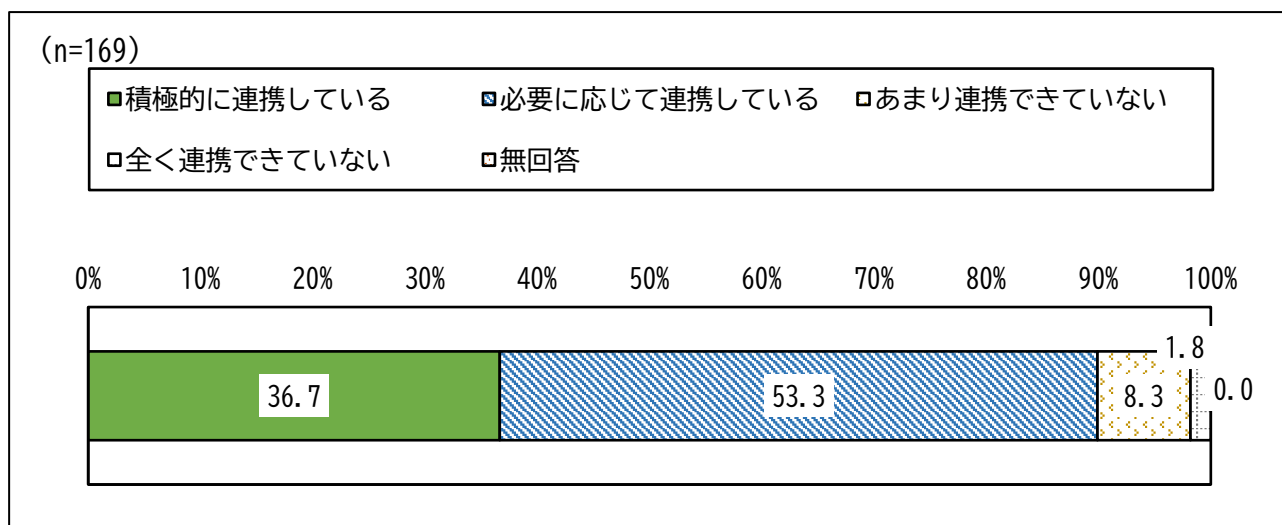
### 問1 ③提供しているサービス



訪問看護が13.0%で最も多く、次に訪問介護が10.1%、通所介護、居宅介護支援事業所が9.5%となっています。

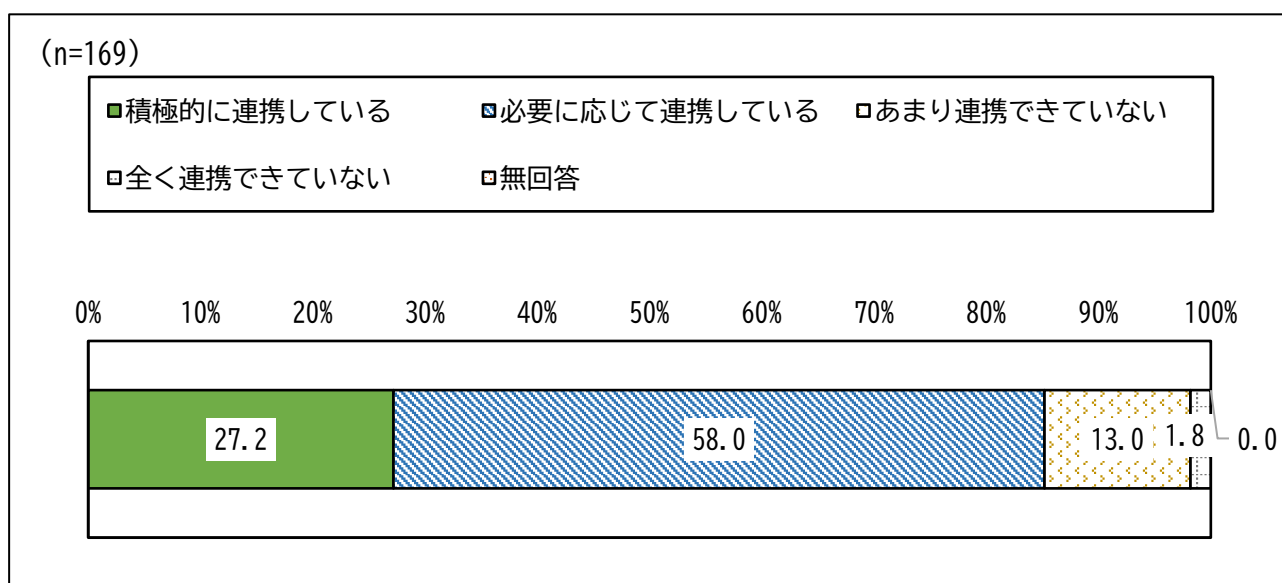
## 問2 医療機関や他の介護事業所、地域の活動団体との連携状況はいかがですか

### ①医療機関（病院・診療所）



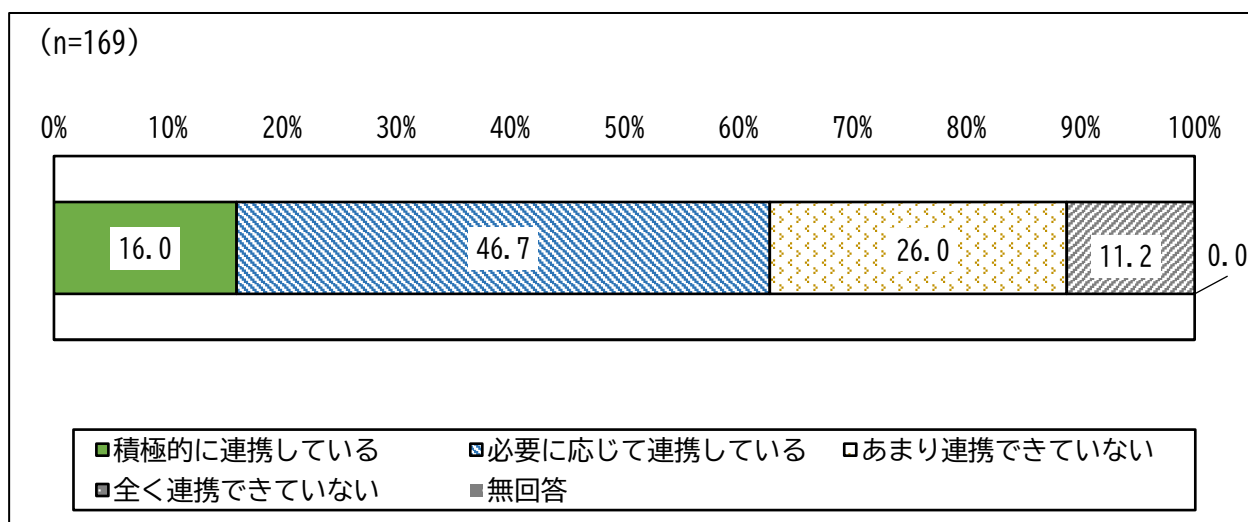
必要に応じて連携しているが53.3%で最も多く、次に積極的に連携しているが36.7%、あまり連携できていないが8.3%となっています。

### 問2 ②地域の介護事業所



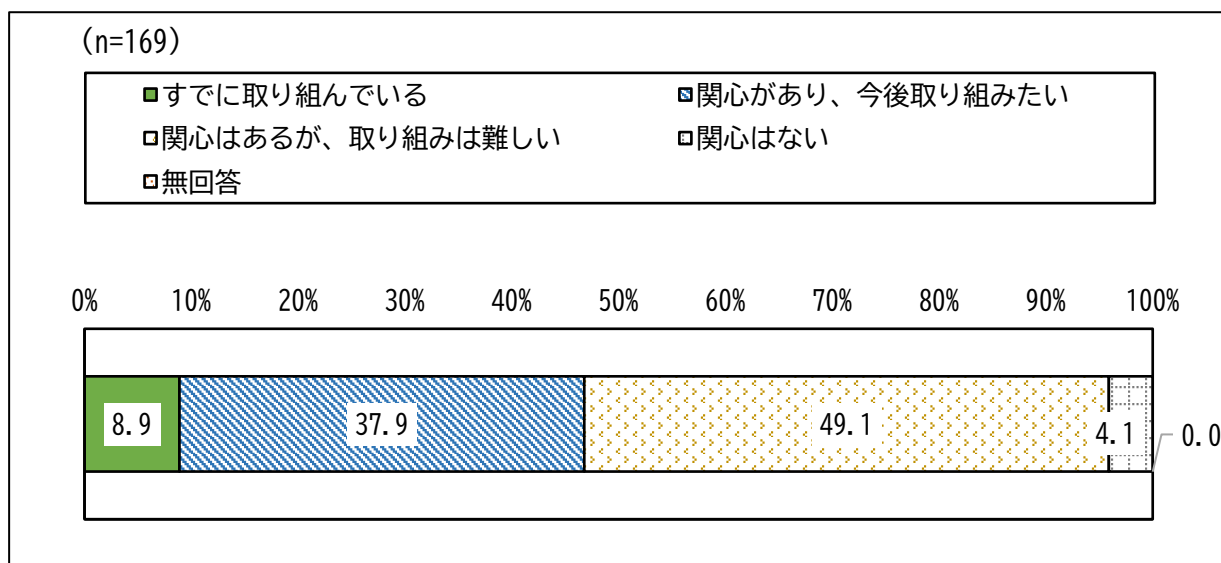
必要に応じて連携しているが58.0%で最も多く、次に積極的に連携しているが27.2%、あまり連携できていないが13.0%となっています。

## 問2 ③地域の活動団体（サロン・ボランティア等）



必要に応じて連携しているが46.7%で最も多く、次にあまり連携できていないが26.0%、積極的に連携しているが16.0%となっています。

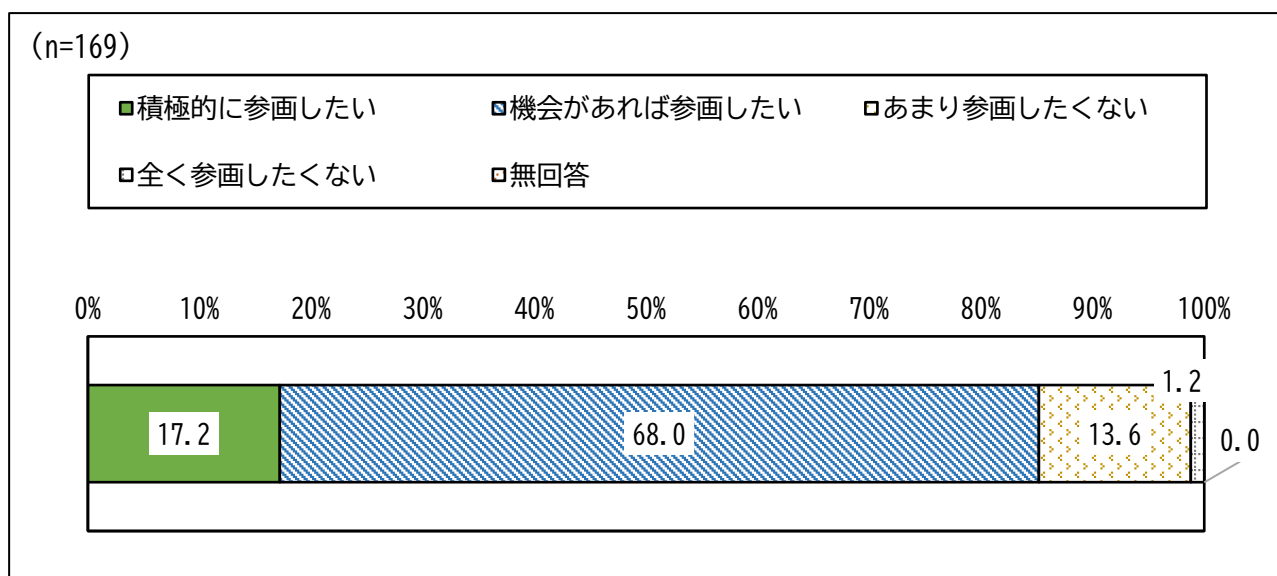
## 問3 地域の住民やボランティアと連携した新たなサービス提供に関心はありますか



関心はあるが、取り組みは難しいが49.1%で最も多く、次に関心があり、今後取り組みたいが37.9%、すでに取り組んでいるが8.9%となっています。

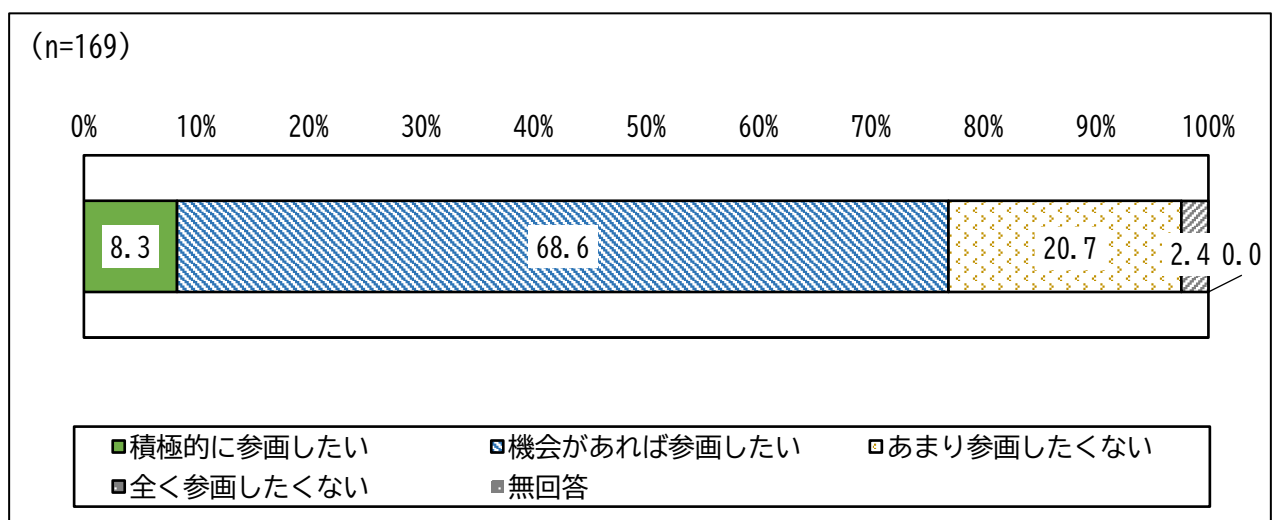
問4 以下のような分野横断的な取り組みについて、貴事業所が参画・協力する意向はありますか

①地域の介護予防拠点（通いの場等）へ専門職派遣や協力



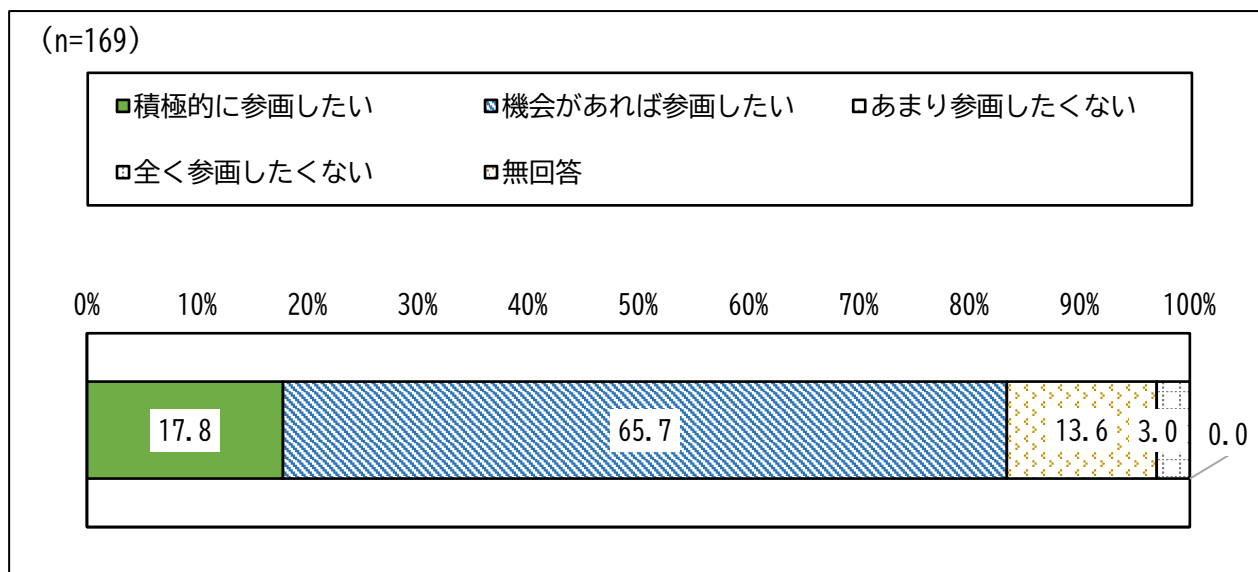
機会があれば参画したいが68.0%で最も多く、次に積極的に参画したいが17.2%、あまり参画したくないが13.6%となっています。

問4 ②民間企業と連携した高齢者向けの新サービス



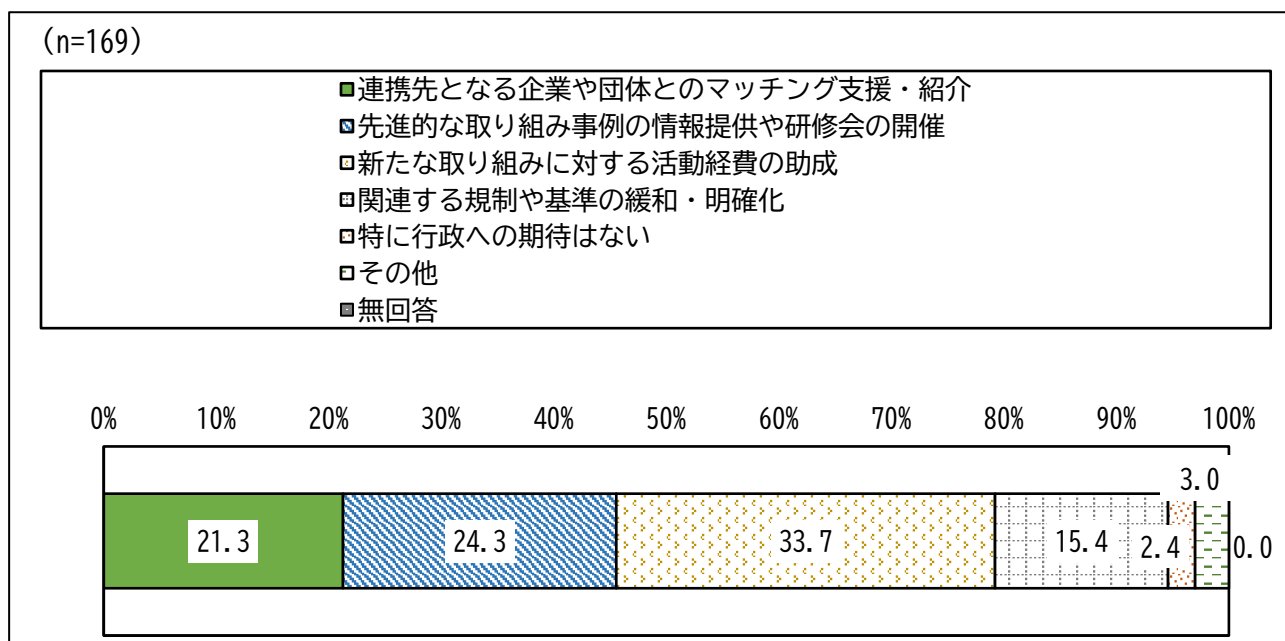
機会があれば参画したいが68.6%で最も多く、次にあまり参画したくないが20.7%、積極的に参画したいが8.3%となっています。

#### 問4 ③地域住民が主体となる活動



機会があれば参画したいが65.7%で最も多く、次に積極的に参画したいが17.8%、あまり参画したくないが13.6%となっています。

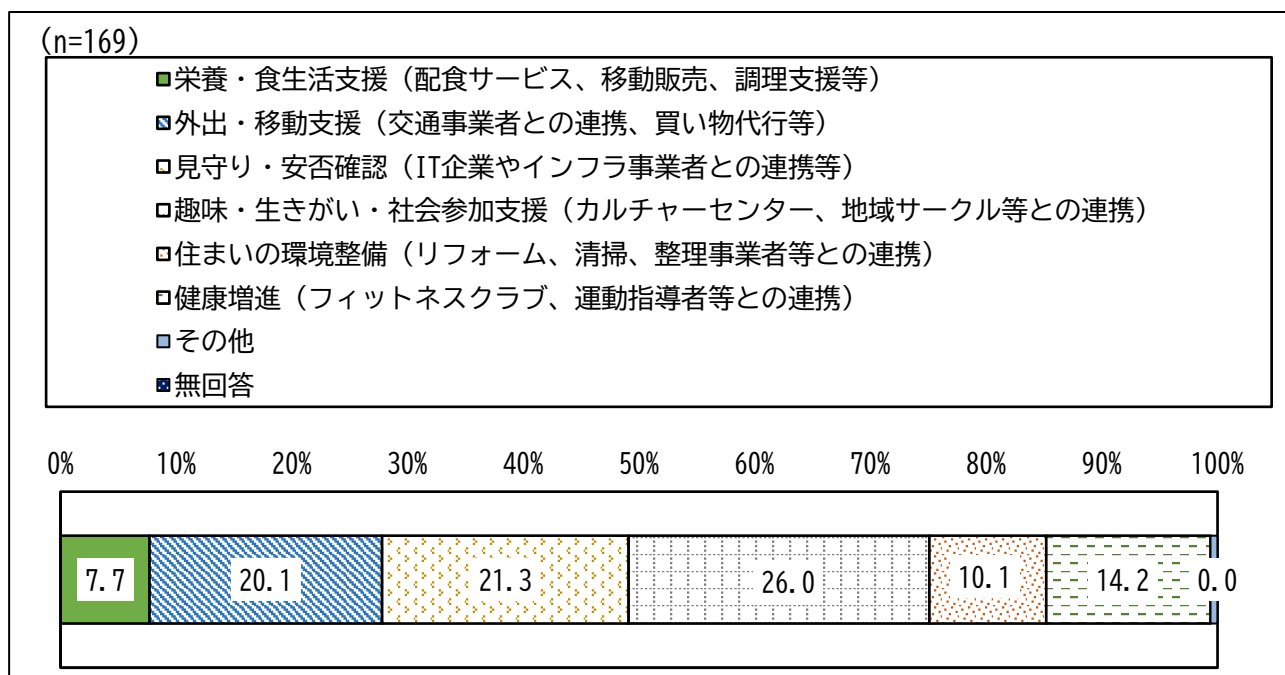
#### 問5 問4のような新たな取り組みを進める上で、行政にどのような支援を期待しますか



新たな取り組みに対する活動経費の助成が33.7%で最も多く、次に先進的な取り組み事例の情報提供や研修会の開催が24.3%、連携先となる企業や団体とのマッチング支援・紹介が21.3%となっています。



問6 貴事業所が今後、民間企業や地域の団体等と連携を強化するとした場合、特にどのような分野に関心がありますか



趣味・生きがい・社会参加支援（カルチャーセンター、地域サークル等との連携）が26.0%で最も多く、次に見守り・安否確認（IT企業やインフラ事業者との連携等）が21.3%、外出・移動支援（交通事業者との連携、買い物代行等）が20.1%となっています。

問7 もし制度や採算性を度外視して自由に発想できるとしたら、米子市の高齢者の生活を豊かにするために、どのような新しいサービスや地域との連携・協働のアイデアがありますか。具体的にお聞かせください

意見内容
ボランティアや移動販売車が気軽に利用できるシステムがあったら活用しやすいと思う。
既に電気利用量の波形をみて見守る事業をスタートおよび、健康介護相談のAI LINE相談をスタートしており、親和性高い部局の方と繋がりたいと思います。今度打ち合わせをさせていただきます。
移動手段（低料金のタクシー） 外出（受診）同行支援
米子ゴルフはフレイル予防に良いので、非常に多くの高齢者が楽しんでいます。もし、米子ゴルフ場のように安くてゴルフができる施設が増えると良いかと思います
安否確認を兼ねた独居老人宅の訪問と話し相手などを、地域住民や行政、在宅医と協力して行うような取り組み
車に乗れなくなった方の買い物支援（車で送迎を地域ごとで運営し、地域の高齢者の買い物のサポートをする） 40. 50. 60 代の病気で障がいがある方の働く場が増えると良い。脳梗塞で麻痺が強くてできることが限られていても、できることを見極めて役割が持てる場をマッチングしていただける場が増えると良い。
移動手段がなく、閉じこもりや社会参加の場に出れないケースも多いと感じる。自動走行車両など導入など人的負荷が少なく移動手段の確保ができるといい。
地域の人材発掘、特に元看護師や保健師、リハビリ職種など健康の管理ができる人材、高齢者の健康の異変に気付ける人材をサロン運営スタッフとして協力してもらえるシステム作り。介護予防、健康増進の考えが普通に地域に根差された風土作り。
イオン等の大きな商業施設に介護施設を設置することで、建物内で買い物、娯楽等が利用できると感じる。高齢者は、通院、通所サービス以外に出掛ける手段が少なく孤立していると感じる。また、そのような意見をご利用者から未来予想図として聴取しています。
○施設の理解を深めるべく、乗合バスなどを活用し地域の方とツアーをし、双方の楽しみの時間等を創る ○運転免許返納者にタクシーチケットを配布及びタクシーの台数の確保 ○様々な趣味に対応したグループ活動の創生及び運営 ○専門的な知識を有する者に何でも相談ができる相談窓口の設置 ○ボランティアや地域住民と畑などで花や作物を作り、鑑賞などをする
高齢者と若者が協働できるようなレクリエーションの開催（ゴルフコンペ、トレッキング：クオカードのような参加賞あり）、ワンコインで利用できるサービス（タクシー、薬局の薬配達、買い物など）
移動手段の無料化

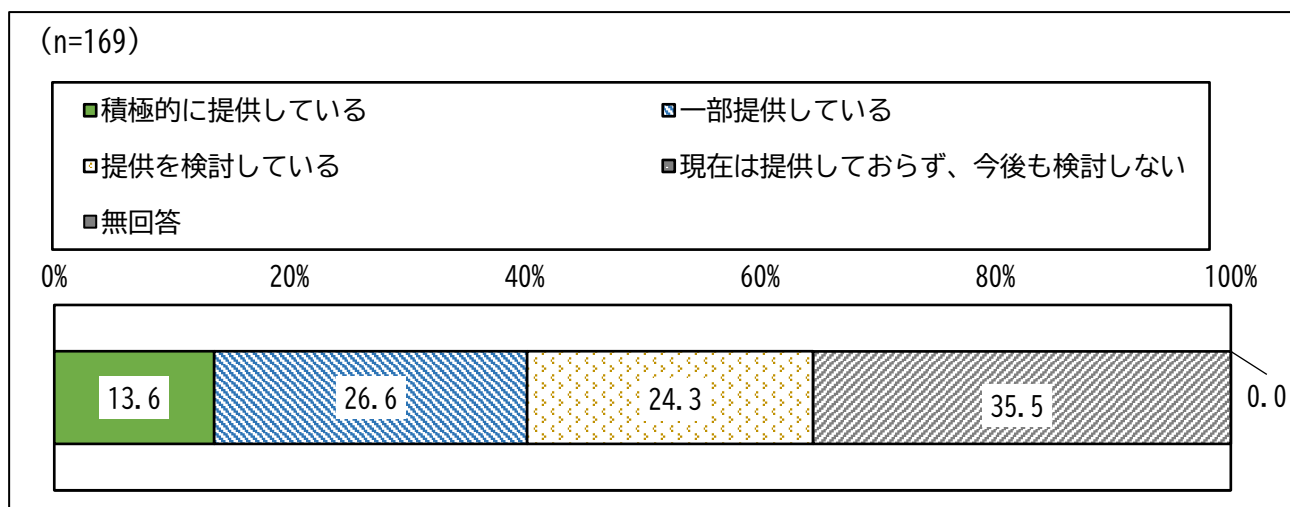
ゲームセンターや映画室、ジム機能が十分な広さに常設されている、また同一施設に保育機能、公園・遊具やカフェがあり全年代が交流できる施設に高齢者が集まれる（デイサービスのように送迎サービスも有り）
具体的には無いですが、フレイルに該当する、交通手段の利用が困難な独居老人へ支援がもっとあれば良いと思います。
生活困窮者への生活指導、本人に現状把握出来るような支援をしてもらいたい。
身元引受人サービス  少しのサポートがあれば働ける高齢者の就労の場
個人的に「豊かにする」というよりも「最低限の生活」を整えて頂きたい。豊かに暮らしたい高齢者は、自費で思うように暮らしたらよいと思います。
認知症の方を支える家族にとって使いやすいサービス（見守り支援や買い物代行、行方不明時の捜索応援等）やこれから認知症になった時の為のサービス（民間の認知症保険）が必要だと思います。また、豊かにするという発想とは逆行しますが、高齢者の運転について厳格に対応すべき。「高齢者だから」「交通弱者だから」という理由で、他多数の市民が危険にさらされるのは問題だと思います。「車が無いと困る」は自己責任です。それであれば「車が無くて困らない所」に移住するべき。  *法人の意見ではなく、個人の見解です。
デイサービスでも、作業（工賃が出る）が出来ると、本人の意欲や社会貢献になるのかな、と思う。  免許返納や、バス停が遠い等あるので、買い物・通院、乗り合いバス、タクシー  入院や入所時の、保証人を担える人が機関（今必要のタイミングで対応してもらえる）が有るとよい
1「高齢者が強みを活かして元気に働く場」  概要：高齢者が通所介護事業所に通いながら事業所内で生産活動を行い賃金を得ることができる。  ・高齢者の永年培った技術を活かし、食品などを生産・販売を行うことで得た利益を賃金として受け取る。  ・受け取った賃金で利用している通所介護サービスの利用料を支払う。  ・自ら稼いだお金でサービスを利用する充実感を得る。  ・余った年金を趣味嗜好にあてることで日常生活が充実する。  2「シニア農園×保育園」  概要：高齢者が小規模農園を運営し、近隣の保育園児と一緒に野菜を育て販売する。  ・高齢者の知恵と経験を活かし、子どもたちに食育を提供する。  ・収穫祭や季節のイベントで地域交流を図る。  ・保育園との連携で、月1回の「農園の日」を設ける。
各地域の見守り、安否確認サービスを早期に拡充すべきと考えます。有る地域と無い地域がありますので…
保険外での通いの場や県外への外出支援
・高齢者宅への給食センターからの配送  ・散髪巡回サービスの定期的な利用  ・爪切りサービス  ・ネットを使わない買物支援

<p>高齢者独居もしくは高齢者夫婦世帯（特に国保年金生活）に対して安価での買い物支援や移動支援、訪問散髪、訪問栄養指導等ができること暮らしやすいフレイル予防等もピックアップ＆フォローアップができるのではないのでしょうか？高齢者の多い自治会に対して、もっと保健師等が介入して負担軽減を図ることも必要と考えます。保健師の活動として特に高齢者独居もしくは高齢者夫婦世帯への単独訪問をして現状を把握したうえで必要な支援を検討すべきだと思います。</p>
<p>高齢者が歩いて行ける距離の小さい規模でのサロンで集える場所。または高齢者に限らずどんな世代も集まれる場所。CMでやっているような子供食堂で子供から大人・高齢者関係なく集える場所があるといふ。</p>
<p>空き家×多世代ホームシェア 1軒の家に、高齢者・若者・子育て世帯が住み、生活を支え合う。食事・洗濯・買い物などを分担し、互いの生活リズムを尊重して生活できる空間を作る。</p>
<p>デイサービスでのマルシェを定期的にしたい。例えば、ショッピングカーだけでなく、パン屋さん、お好み焼きやたい焼きなど、ちょっとした楽しみが出来るような移動販売車を無料でデイサービスに派遣してくれる事業があると、利用者様もデイサービスに楽しく通えるし、利用する価値が上がると思う。満足度向上。地域住民にも解放して、定期的な開催で地域も盛り上がる。</p>
<p>①コロナ感染以降の生活習慣の変化や昨今のインフレで、旅行に積極的に行ける方（一部の方）と出来にくい方がいます。自由に芸術や文化、季節に触れることの出来る機会の創出が通所中にできればと思います。 ②通所介護において、送迎はこのインフレ下にて、車購入・メンテ維持・ガソリン代等コストを捻出しにくい状況です。複数の通所事業所を纏めて送迎できる仕組みがあれば最高です。 ③昼食も学校給食の様な仕組みで、各事業所に配布される仕組みがあると助かります。尚、地域連携に関しては、地域の高齢化や共働きにて、日中の在宅人口は極端に少なく、企業単位または団体等での連携を図らないと個人レベルでのボランティア活動が出来る方がいないのが現実です。</p>
<p>介護美容の充実と他施設との趣味デクレーションの共同支援</p>
<p>特に一人暮らし、二人暮らしの世帯。 免許を返納したことで、買い物、受診、外出等が自由に行えない方が利用できる個別で対応できる送迎サービスの充実、また、送迎サービス+困り事の相談から連携できるサービス。</p>
<p>独居、日中独居の高齢者が運動、交流を通し集える場に食事提供をしていく。 出かける楽しみ、食べる楽しみの場の提供。（介護保険ではなく、地域の力、事業所の力が必要）通所サービス休みの日に場の提供する等。 困りごと等も、何気ない会話から引き出す。</p>
<p>託老所や買い物の送迎サービス</p>
<p>全世代における高齢者の生活が豊かになるための教育の普及、まずはそこからと思う</p>
<p>買い物や行きつけの美容院等の付き添い、以前行っていたところ、馴染みのある所につれていってくれる</p>
<p>介護認定者又は免許返納者に対し、タクシー等の交通機関を仕様した際の、助成金制度</p>

様々な施設への移動販売事業 介護保険外でセラピストが事業所へ訪問し、リハビリや集団レク等の提供等
ご利用者の中で食事を宅配弁当やスーパーの総菜に頼るしかない人が多数いらっしゃいます。介護職が体に良くて簡単でおいしい食事を作れるような研修会があったらどうでしょうか。
独居老人宅への、安否確認を兼ねた訪問、話し相手
買い物や受診でタクシーを使うお金が無い方多い。また、買い物も同行してもらい買い物がしたい方も多いので安いお金での移動と同行があれば良いと思う。今後免許返納する方もバス停まではあるけない。買い物したものを持ち帰りバス停からは歩けないなどある。
買い物支援や地域と交流すとポイントが付与される。 同窓会に参加困難になるのでオンライン同窓会の開催など。
高齢者タクシー（採算性度外視ならば無料で）が活用できると行動範囲が広がると思います。だんだんバスなどありますが、行動するのに時間や場所の制限がどうしてもありますから。
高齢者、特に独居の方や身体の不自由な方へが食事を十分にかつ容易に摂取できるサービスがあると良いと思います
低価格での移送サービス、車がないと買い物に行けない地域への移動販売
低所得者や生活保護の世帯への 格安での集合住宅（使われなくなった）の一室貸し出し
・要支援の方への入浴加算を作り、事業所にお金が入ることで、対応してくれる通所サービスを増やす。・買い物や通院のためのタクシー代を助成（半額程度）。・スーパー、小売店のない地区に移動販売車が毎日のように来る。・介護保険料を納めている対象者の健康維持に対する取り組みを評価し、保険料を下げる、又は増額する。・地域サロンの世話役など主導的な役割を担う人には、サロン運営費用とは別に報奨がでる。後継者を育て後任が世話役になれば追加で報奨がでるが、世話役には任期を設定する。
サ高住等のアクティビティルームを使用し地域の方の健康増進やコンパクトシティを実現し、幸福長寿社会を目指す
必要に応じて生きがいにつながるサービスはフォーマル、インフォーマルともに充実していると思う。人との関わりが苦手な人を置いていかないように、何に1度は年金の受け渡しに応じて体操に参加してもらう等の半ば強引なやり方もあってはいいと思う。
①免許返納した高齢者の足となる取り組みがなされているが、まだまだ十分ではない状況である。支援が無くても出かけることが出来、引きこもりが予防できるように、交通手段を充実し、少し離れた 公民館 集会所 オレンジサロン等にも出かけられるような取り組み。 ②高齢世帯 独居世帯で 家族がすぐに動けないもしくは身寄りのない方の場合の 緊急入院時等のサポート体制の充実
雪掻き支援、ゴミ出し、趣味活動の支援があると良いと思います。
全高齢者の生活や健康などの確認が必要

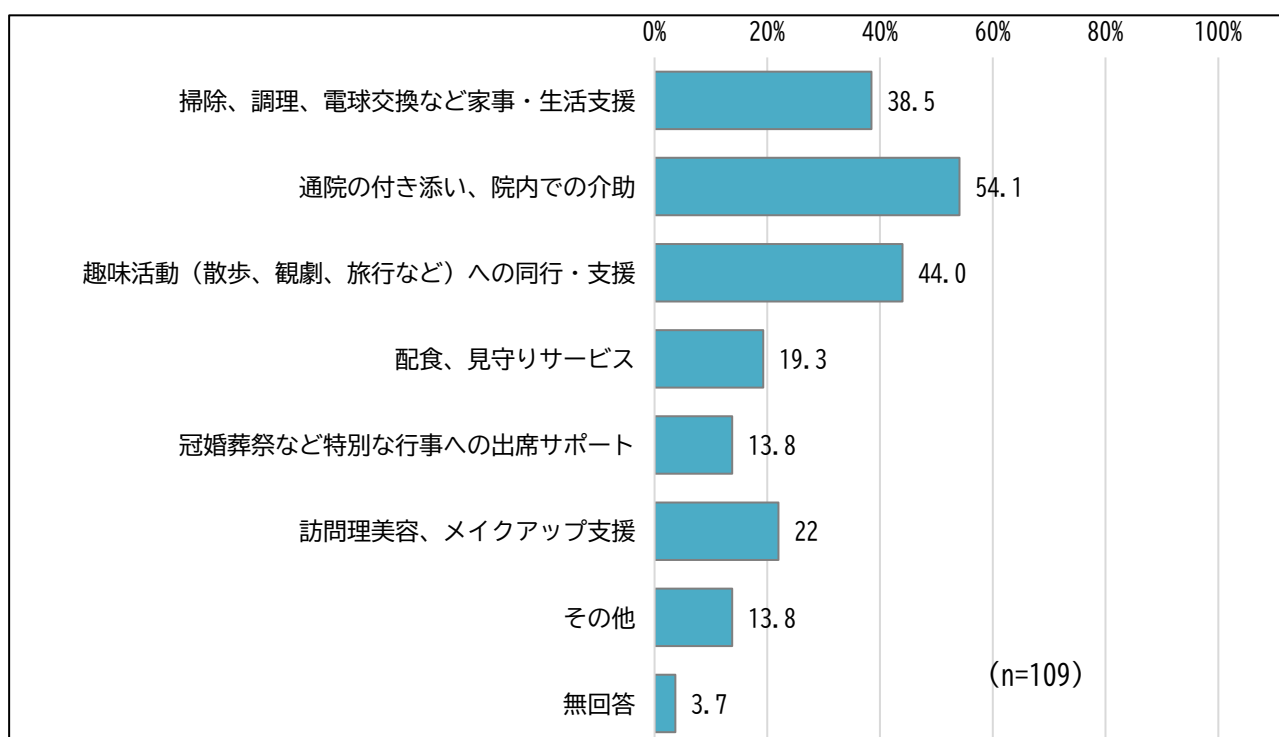
目的を問わない外出送迎、同行
例えば、認知症カフェのような施設や子供食堂の様な所で高齢者の方が働いて賃金を得ることができるような場所を作る
横連携がしやすいように同じシステムを使用する。
身寄りのない高齢者対策 若いうちから先を考えておくような働きかけ、取り組み
核家族化が進んだ今日、高齢者が安心して死を迎えることができる事が必要と思います。 高齢者が亡くなった後の、自宅の片付け、資産処分等のサポート事業 亡くなった後、遺族に負担を掛けないような、累代の墓仕舞い、その後の永代供養等の総合的なサポート事業 行政には永代供養を請け負う宗教法人等が経営破綻に陥った際に、何らかの保証をする制度（保証協会の様な機関）の創設を期待します。
効率化と協働だと思っています。自社は家政婦紹介業を持っていますのでマッチングを行うことも一つの役割です。 米子市公認のマッチング事業主として皆が適正だと思ってもらえる法外ではない金額で人財マッチングを行いたいと考えています。 高齢者が自分のできることを発揮しながら少しでもいいので働く仕組みがあれば、介護業界の有給取得率や就業者は増えると考えています。 まずは発掘し、もしも送迎が必要ならば送迎し、出来る範囲の仕事を登録して参画できる仕組みをつくりたいと思っています。
移動支援の充実（身体的にも、金銭的にも自宅から自由に外出できる機会が増える） 地域の有償ボランティアの活用、創設
買い物は自分の目で見たい、という方が多いので、割安で同行出来る支援があると良いと思います。
整骨院とリハビリ、くっつけてリハビリ後に整骨院に行き治療などしたい。
介護事業所同士の連携や支援などが相互にできるようなシステムがあればよいと思います。
身寄りのない人、認知症などの金銭・重要な書類の管理管理、保証人問題→事前の契約で可能になる制度 郵送等で保険証、通帳など代理で受け取れる仕組み 自宅前に来てくれる低料金のタクシー、バス 公民館にエレベーターか平屋建て 安心して歩ける歩道 100m程度の距離でスーパー、コンビニ キッチンカーのような移動式に必要な場所に食事処設置（高齢者向け食、うどんなど） コンビニに入浴施設
介護が必要ない方に限定されますが、自分の足で歩いて行ける範囲に、衣食住に関する小さくても良い店舗がある事が大事だと思います。住み慣れた地域で生活するのであればその周りに必需品をそろえることが必要。地域関係なく、小さなコミュニティーを作り、移住し、その中で生活していくのも良い。出来ることを続け、自分の役割を持って生活しているという生きがいこそが高齢者の生活を豊かにすると思います。
生活保護対象者や低所得者への支援

問8 介護関連サービス（介護保険外サービス）の提供について、貴事業所の状況はいかがですか



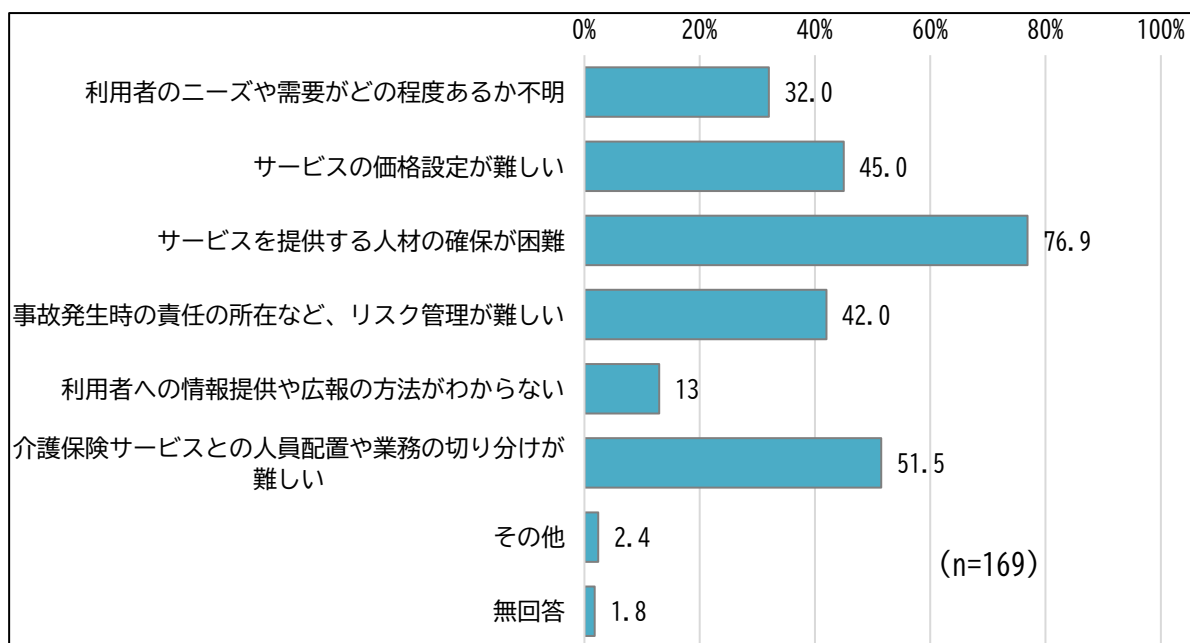
現在は提供しておらず、今後も検討しないが35.5%で最も多く、次に一部提供しているが26.6%、提供を検討しているが24.3%となっています。

問9 （問8で「1～3」と回答した事業所の方へ）現在提供中、または今後提供を検討したい介護関連サービス（介護保険外サービス）はどのようなものですか



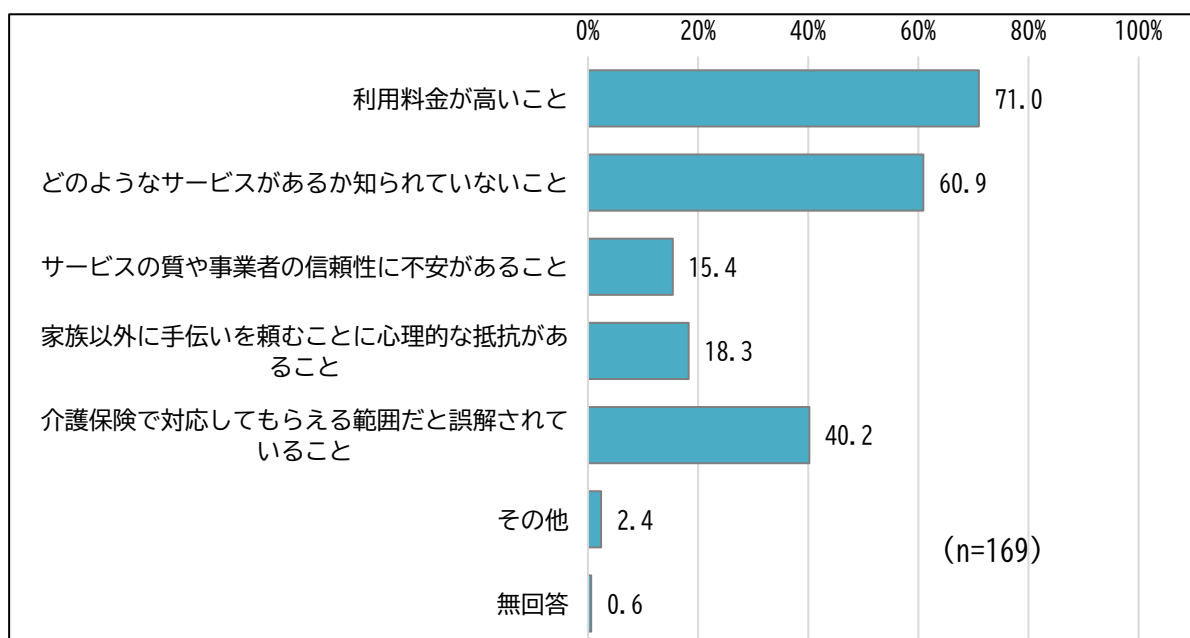
通院の付き添い、院内での介助が54.1%で最も多く、次に趣味活動（散歩、観劇、旅行など）への同行・支援が44.0%、掃除、調理、電球交換など家事・生活支援が38.5%となっています。

問１０ 介護関連サービス（介護保険外サービス）の提供・拡大における主な課題は何ですか



サービスを提供する人材の確保が困難が76.9%で最も多く、次に介護保険サービスとの人員配置や業務の切り分けが難しいが51.5%、サービスの価格設定が難しいが45.0%となっています。

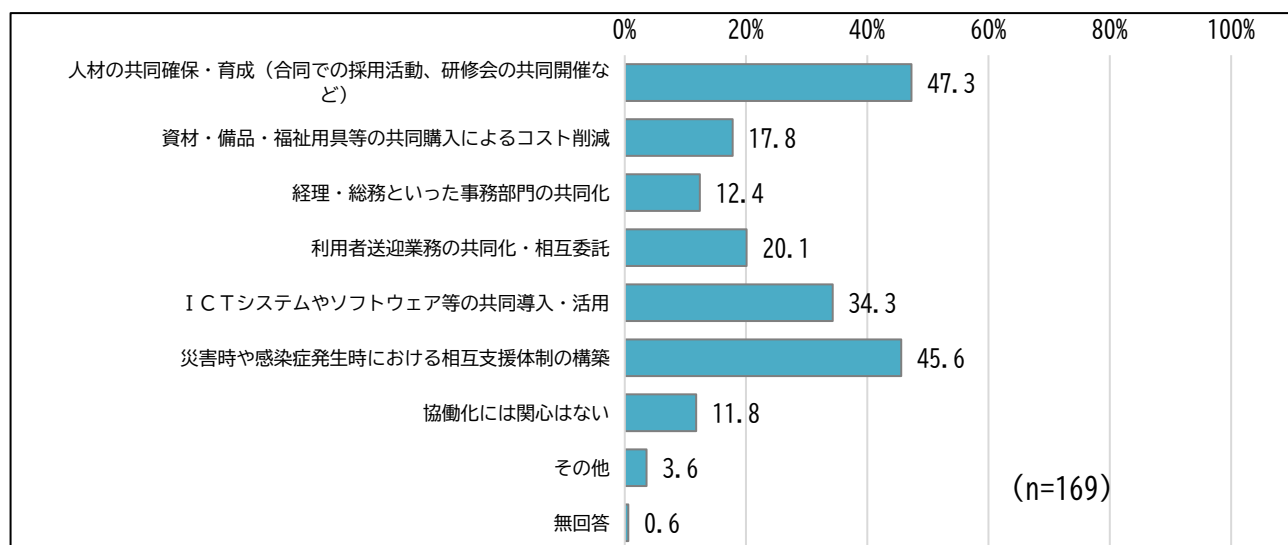
問１１ 利用者やそのご家族が、介護関連サービス（介護保険外サービス）の利用をためらう主な理由・障壁は何だと感じますか



利用料金が高いことが71.0%で最も多く、次にどのようなサービスがあるか知られていないことが60.9%、介護保険で対応してもらえる範囲だと誤解されていることが40.2%となっています。

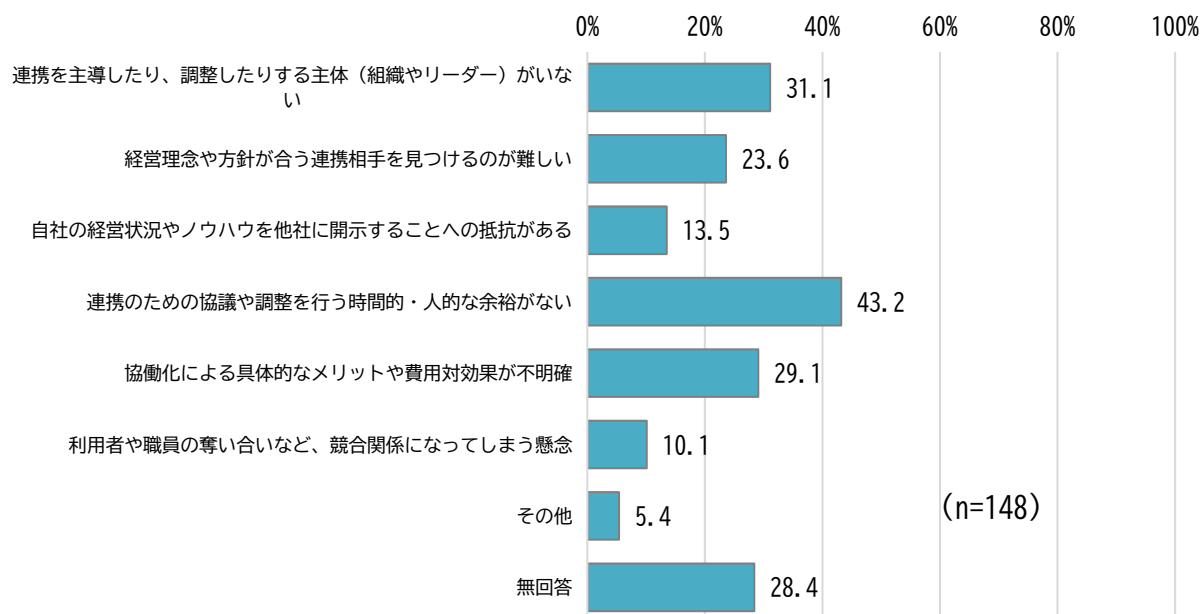


**問１２ 今後の人材不足やコスト増加等を見据え、地域の他の介護サービス事業所との協働化（連携）に関心はありますか。関心がある場合、特にどの分野での協働に関心がありますか**



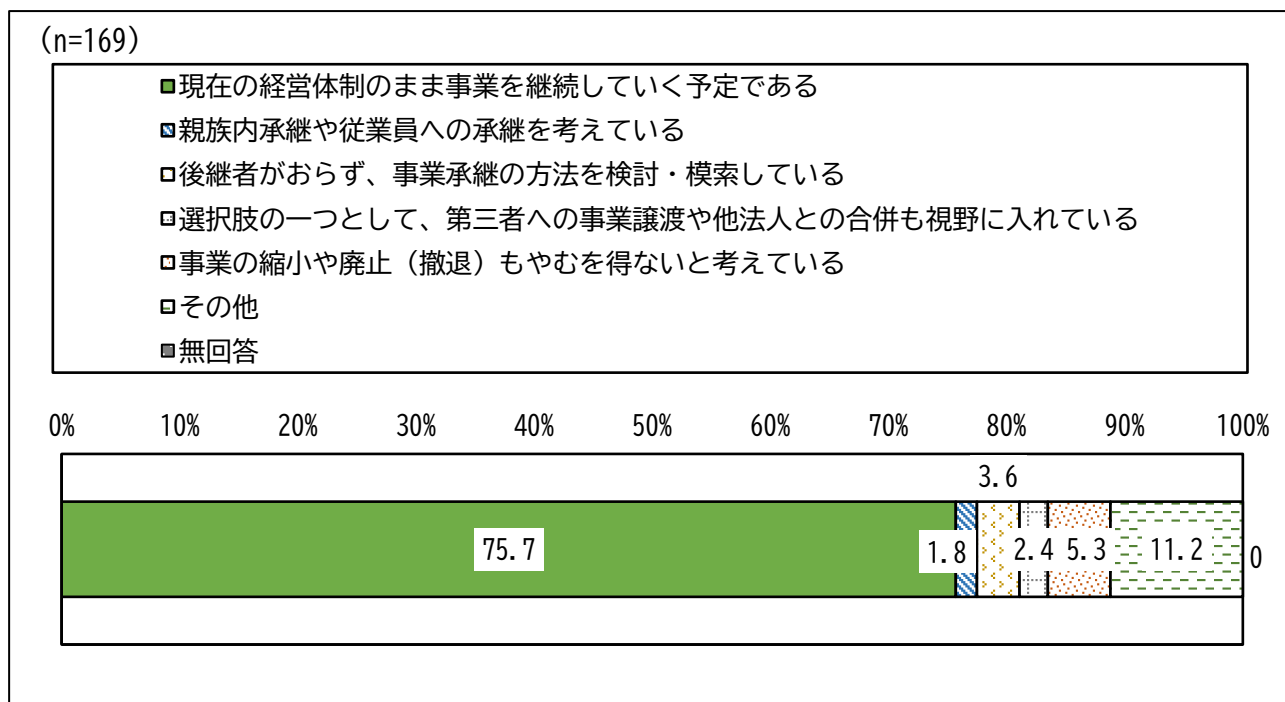
人材の共同確保・育成（合同での採用活動、研修会の共同開催など）が47.3%で最も多く、次に災害時や感染症発生時における相互支援体制の構築が45.6%、ICTシステムやソフトウェア等の共同導入・活用が34.3%となっています。

**問１３ （問１２で「７．協働化には関心はない」以外を選んだ方へ）他の事業所との協働化を進める上で、課題や障壁になると考えられることは何ですか**



連携のための協議や調整を行う時間的・人的な余裕がないが43.2%で最も多く、次に連携を主導したり、調整したりする主体（組織やリーダー）がないが31.1%、協働化による具体的なメリットや費用対効果が不明確が29.1%となっています。

問14 5年～10年先を見据えた事業の継続や事業承継について、現時点でのお考えに最も近いものを1つお選びください



現在の経営体制のまま事業を継続していく予定であるが75.7%で最も多く、次に事業の縮小や廃止（撤退）もやむを得ないと考えているが5.3%、選択肢の一つとして、第三者への事業譲渡や他法人との合併も視野に入れているが2.4%となっています。

## 3. 課題分析

### (1) SWOT分析

SWOT分析は、事業戦略や計画を立案する際に用いられるフレームワークです。組織や事業を取り巻く環境を分析し、現状の強み、弱み、機会、脅威の4つの要素に分類・整理することで、戦略的な方向性を明確にする目的があります。

要素	分類	定義	意味合い
強み (Strengths)	内部環境・プラス要因	組織が持っている優位性や長所。	事業展開や目標達成において有利に働く要素。
弱み (Weaknesses)	内部環境・マイナス要因	組織が抱える課題や欠点。	事業展開や目標達成において不利に働く要素。克服すべき点。
機会 (Opportunities)	外部環境・プラス要因	市場や社会、政策などの変化が生み出す有利な状況。	活用することで成長や発展に繋がる要素。
脅威 (Threats)	外部環境・マイナス要因	競合や法改正、社会情勢などの変化による不利な状況やリスク。	対策を講じることで回避・軽減すべき要素。

#### 強み (Strengths)

##### ▶ 高い連携意欲（機会があれば参画したい層）

分野横断的な取り組み（介護予防拠点、民間連携サービス、地域住民活動）に対し、「機会があれば参画したい」が約 65%～68% と非常に高い水準にある。

##### ▶ 医療機関との強固な連携

医療機関（病院・診療所）との連携状況について、「必要に応じて連携している」（53.3%）と「積極的に連携している」（36.7%）を合わせ、連携ができている事業所が90%に迫る。

##### ▶ 地域介護事業所間の高い連携度

地域の介護事業所同士の連携も「必要に応じて連携している」（58.0%）と「積極的に連携している」（27.2%）で85%以上が連携を確保している。

##### ▶ 非保険サービスへの一定の関心と実績

介護関連サービス（介護保険外サービス）を「積極的に提供している」（13.6%）、「一部提供している」（26.6%）、「提供を検討している」（24.3%）を合わせ、約64%の事業所が関心または実績を持っている。

##### ▶ 共同化への強い関心

人材確保・育成（47.3%）や災害時の相互支援（45.6%）、ICTシステムの共同導入（34.3%）など、他事業所との協働化に高い関心が示されている。

##### ▶ 事業継続への高い意向

5～10年先の事業継続について、「現在の経営体制のまま継続していく予定」が75.7%と高く、事業存続への意識が強い。

## 弱み（Weaknesses）

### ▶ 非保険サービスの提供・拡大の課題

非保険サービスの提供・拡大の主な課題として、「サービスを提供する人材の確保が困難」が 76.9% で圧倒的に高く、「介護保険サービスとの人員配置や業務の切り分けが難しい」も 51.5% と半数を超えている。

### ▶ 地域活動団体との連携不足

地域の活動団体（サロン・ボランティア等）との連携状況は、「必要に応じて連携している」が 46.7% で最多である一方、「あまり連携できていない」（26.0%）と「全く連携できていない」（11.2%）の合計が 37.2% と、医療機関や介護事業所間に比べ連携不足が顕著。

### ▶ 協働化のためのリソース不足

他の事業所との協働化の課題として、「連携のための協議や調整を行う時間的・人的な余裕がない」が 43.2% で最も多い。

### ▶ 協働化のリーダーシップとメリットの不明確さ

協働化の障壁として「連携を主導したり、調整したりする主体（組織やリーダー）がいない」が 31.1%、「協働化による具体的なメリットや費用対効果が不明確」が 29.1% と、推進体制と効果の可視化が不足している。

### ▶ 地域連携への心理的障壁

地域の住民やボランティアと連携した新たなサービス提供について、「関心はあるが、取り組みは難しい」が 49.1% で最も多い。

## 機会（Opportunities）

### ▶ 行政による支援への具体的な期待

新たな取り組みを進める上での行政支援について、「新たな取り組みに対する活動経費の助成」（33.7%）、「先進的な取り組み事例の情報提供や研修会の開催」（24.3%）、「連携先となる企業や団体とのマッチング支援・紹介」（21.3%）など、具体的な支援ニーズが明確になっている。

### ▶ 多様な非保険サービスの潜在的需要

現在または今後検討したい非保険サービスとして、「通院の付き添い、院内での介助」（54.1%）、「趣味活動への同行・支援」（44.0%）、「家事・生活支援」（38.5%）など、生活の質を高める個別ニーズが高い。

### ▶ 地域連携強化の関心分野の明確化

民間企業や地域団体との連携強化に関心が高い分野として、「趣味・生きがい・社会参加支援」（26.0%）、「見守り・安否確認」（21.3%）、「外出・移動支援」（20.1%）が上位であり、連携すべきターゲットが明確になっている。

### ▶ 団塊世代のニーズに対応した事業開発

自由記述において、「高齢者と若者が協働できるようなレクリエーションの開催」や「高齢者が強みを活かして元気に働く場」「シニア農園×保育園」など、社会参加や多世代交流を通じた生きがい支援のアイデアが豊富に提案されている。

### ▶ ICT/テクノロジー導入の余地

協働化の分野で「ICT システムやソフトウェア等の共同導入・活用」が 34.3% の関心を集めており、技術を活用した効率化や連携強化の余地がある。

## 脅 威 （ Threats ）

### ▶ 事業承継問題の顕在化

5～10年先を見据えた事業承継について、「後継者がおらず、事業承継の方法を検討・模索している」（3.6%）、「第三者への事業譲渡や他法人との合併も視野に入れている」（2.4%）、「事業の縮小や廃止もやむを得ない」（5.3%）と、一定数の事業所で後継者問題や事業撤退の可能性が迫っている。

### ▶ 非保険サービスの利用料金への抵抗

利用者が非保険サービスの利用をためらう最大の理由・障壁は「利用料金が高いこと」が71.0%であり、低所得者層へのサービス提供において、採算性の問題が深刻化する可能性がある。

### ▶ 非保険サービスの認知度不足と誤解

利用をためらう理由として、「どのようなサービスがあるか知られていないこと」（60.9%）、「介護保険で対応してもらえる範囲だと誤解されていること」（40.2%）が上位であり、サービス提供側の情報発信と利用者側の理解のギャップが大きい。

### ▶ 地域共生社会における連携先の不足

自由記述にもあるように、「地域の高齢化や共働きにて、日中の在宅人口は極端に少なく、企業単位または団体等での連携を図らないと個人レベルでのボランティア活動が出来る方がいないのが現実」という指摘があり、地域住民によるボランティア資源が減少している。

### ▶ 競合関係の懸念

協働化の障壁として「利用者や職員の奪い合いなど、競合関係になってしまう懸念」が10.1%あり、連携推進における事業所間の不信感が存在する。

## (2) 課題分析

### 5つの主要な課題

#### ▶ 人材・リソースの確保と連携の非効率性

非保険サービス提供の最大の課題が「人材確保」であり、同時に協働化の障壁が「時間的・人的な余裕がない」ことです。これは、既存業務に追われ、新たなサービス展開や連携強化に割く余裕がないという、人手不足と業務過多の悪循環を示しています。

#### ▶ 地域活動団体との連携の弱さ

医療機関や介護事業所間では連携が進んでいる一方で、地域の活動団体との連携が遅れており、「関心はあるが、取り組みは難しい」層が半数を占めています。これは、地域共生社会の実現に向けたインフォーマルな資源の活用が不十分であることを意味します。

#### ▶ 非保険サービスの提供環境の未整備

利用側は「料金の高さ」を最大の障壁とし、事業所側は「人材確保」や「価格設定の難しさ」を課題としています。また、行政に「活動経費の助成」を最も期待していることから、保険外サービスの普及を阻む採算性と利用者負担の構造的問題が存在します。

#### ▶ 協働化推進の仕組み・リーダーの不在

協働化への高い関心（特に人材確保や災害支援）があるにもかかわらず、「連携を主導・調整する主体がない」ことが障壁となっています。これは、ボトムアップの協働意欲を行政がトップダウンで支援・コーディネートする機能が不足していることを示唆しています。

#### ▶ 将来の事業継続リスク

事業継続意向は高いものの、約 20% の事業所が後継者問題や事業譲渡、または縮小・廃止を検討しており、地域の介護基盤の持続可能性に潜在的なリスクを抱えています。

## 4. 調査票

### 第10期の高齢者のサービス提供体制の構築に向けた 介護事業所アンケート調査

平素より、本市の高齢者福祉行政の推進に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、米子市では、令和9年度を始期とする「第10期米子市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定作業を進めております。この計画は、本市の高齢者施策を総合的かつ計画的に推進するための重要な指針となるものです。

計画策定にあたりましては、市民のニーズを的確に把握するとともに、日々、介護サービスの最前線でご尽力いただいている事業所の皆様からの現状の課題や専門的なご意見を計画に反映させることが不可欠であると考えております。

つきましては、今後の持続可能な介護サービス提供体制の構築に向けた貴重な基礎資料とさせていただきますため、本アンケート調査を実施する運びとなりました。ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年11月  
米子市長 伊木 隆司

### 回答方法

以下のWEBアンケートから回答してください。回答に要する時間は15分程度です。

インターネットから回答

手順1 アクセスする

パソコン

スマホ

二次元コードを読み取る

【下記のリンクからアクセスしてください】

<https://wsurvey.jp/s.php?clear=1&a=yonago-407>



手順2 画面の案内にそって回答し、最後の質問回答後、「提出」ボタンを押す。

※回答中断する際には、IDとパスワードが発行されます。再開の際に入力してください。

### 回答にあたってのお願い

■回答の期限は、令和7年11月21日（金）です。

■令和7年10月1日現在の状況についてお答えください。

■本調査で収集したデータは統計的に処理し、個々のデータ、事業所名を公表することは一切ありません。

本アンケート調査は、米子市がNext-i株式会社 岡山支店に調査を委託して実施します。

調査主体

米子市役所

米子市長寿社会課 介護保険第二担当

TEL：0859-23-5156

受付時間：月～金 8：30～17：15

受託業者

アンケート回答についてのお問い合わせ先

Next-i株式会社 岡山支店

TEL：086-230-0600

受付時間：月～金 10：00～17：00

**問1 貴事業所の基本情報についてお伺いします**

①事業所名を記入	( )	
②法人種別 (○はひとつ)	1. 社会福祉法人 3. NPO 法人 5. その他 ( )	2. 医療法人 4. 株式会社・有限会社
③提供しているサービス (○はひとつ)	1. 訪問介護 3. 訪問入浴 5. 通所介護 7. 通所リハビリテーション 9. 特定施設入居者生活介護 11. 地域密着型特定施設入居者生活介護 13. 小規模多機能型居宅介護 15. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 17. 福祉用具貸与 19. 地域包括支援センター 21. 介護老人保健施設 23. その他 ( )	
	2. 訪問看護 4. 訪問リハビリテーション 6. 地域密着型通所介護 (デイサービス) 8. 短所入所生活介護 10. 短期療養生活介護 (ショートステイ) 12. 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム) 14. 看護小規模多機能型居宅介護 16. 認知症対応型通所介護 18. 居宅介護支援事業所 20. 介護老人福祉施設 地域密着型介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 22. 介護医療院	

## 連携と支援体制の構築について

**問2 医療機関や他の介護事業所、地域の活動団体との連携状況はいかがですか**  
(○は①②③にそれぞれひとつ)

	積極的に連携している	必要に応じて連携している	あまり連携できていない	全く連携できていない
(※回答例)	1	2	③	4
①医療機関 (病院・診療所)	1	2	3	4
②地域の介護事業所	1	2	3	4
③地域の活動団体 (サロン・ボランティア等)	1	2	3	4

**問3 地域の住民やボランティアと連携した新たなサービス提供に関心はありますか**  
(例：配食、移動支援、ゴミ出し支援など) (○はひとつ)

1. すでに取り組んでいる	2. 関心があり、今後取り組みたい
3. 関心はあるが、取り組みは難しい	4. 関心はない



問4 以下のような分野横断的な取り組みについて、貴事業所が参画・協力する意向はありますか（〇は①②③にそれぞれひとつ）

	積極的に参画 したい	機会があれば 参画したい	あまり参画 したくない	全く参画 したくない
（※回答例）	1	2	③	4
①地域の介護予防拠点 （通いの場等）へ専門職派遣や協力	1	2	3	4
②民間企業と連携した高齢者向けの 新サービス （例：移動販売＋見守り）開発	1	2	3	4
③地域住民が主体となる活動 （例：認知症カフェ）へ場所等の協力	1	2	3	4

問5 問4のような新たな取り組みを進める上で、行政にどのような支援を期待しますか（〇はひとつ）

1. 連携先となる企業や団体とのマッチング支援・紹介 2. 先進的な取り組み事例の情報提供や研修会の開催 3. 新たな取り組みに対する活動経費の助成 4. 関連する規制や基準の緩和・明確化 5. 特に行政への期待はない 6. その他（ ）
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問6 貴事業所が今後、民間企業や地域の団体等と連携を強化するとした場合、特にどのような分野に関心がありますか（〇はひとつ）

1. 栄養・食生活支援（配食サービス、移動販売、調理支援等） 2. 外出・移動支援（交通事業者との連携、買い物代行等） 3. 見守り・安否確認（IT 企業やインフラ事業者との連携等） 4. 趣味・生きがい・社会参加支援（カルチャーセンター、地域サークル等との連携） 5. 住まいの環境整備（リフォーム、清掃、整理事業者等との連携） 6. 健康増進（フィットネスクラブ、運動指導者等との連携） 7. その他（ ）
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問7 もし制度や採算性を度外視して自由に発想できるとしたら、米子市の高齢者の生活を豊かにするために、どのような新しいサービスや地域との連携・協働のアイデアがありますか。具体的にお聞かせください（自由記述）

------------------------------------------

## 介護関連サービス（介護保険外サービス）について

問8 介護関連サービス（介護保険外サービス）の提供について、貴事業所の状況はいかがですか（〇はひとつ）

- |               |                        |
|---------------|------------------------|
| 1. 積極的に提供している | 2. 一部提供している            |
| 3. 提供を検討している  | 4. 現在は提供しておらず、今後も検討しない |

問9 （問8で「1～3」と回答した事業所の方へ）現在提供中、または今後提供を検討したい介護関連サービス（介護保険外サービス）はどのようなものですか（〇はいくつでも）

- |                            |                   |
|----------------------------|-------------------|
| 1. 掃除、調理、電球交換など家事・生活支援     | 2. 通院の付き添い、院内での介助 |
| 3. 趣味活動（散歩、観劇、旅行など）への同行・支援 | 4. 配食、見守りサービス     |
| 5. 冠婚葬祭など特別な行事への出席サポート     | 6. 訪問理美容、メイクアップ支援 |
| 7. その他（ ）                  |                   |

問10 介護関連サービス（介護保険外サービス）の提供・拡大における主な課題は何ですか（〇はいくつでも）

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. 利用者のニーズや需要がどの程度あるか不明       |
| 2. サービスの価格設定が難しい              |
| 3. サービスを提供する人材の確保が困難          |
| 4. 事故発生時の責任の所在など、リスク管理が難しい    |
| 5. 利用者への情報提供や広報の方法がわからない      |
| 6. 介護保険サービスとの人員配置や業務の切り分けが難しい |
| 7. その他（ ）                     |

問11 利用者やそのご家族が、介護関連サービス（介護保険外サービス）の利用をためらう主な理由・障壁は何だと感じますか（〇はいくつでも）

- |                                |
|--------------------------------|
| 1. 利用料金が高いこと                   |
| 2. どのようなサービスがあるか知られていないこと      |
| 3. サービスの質や事業者の信頼性に不安があること      |
| 4. 家族以外に手伝いを頼むことに心理的な抵抗があること   |
| 5. 介護保険で対応してもらえない範囲だと誤解されていること |
| 6. その他（ ）                      |

## 協働化について

問12 今後の人材不足やコスト増加等を見据え、地域の他の介護サービス事業所との協働化（連携）に関心はありますか。関心がある場合、特にどの分野での協働に関心がありますか（〇はいくつでも）

1. 人材の共同確保・育成（合同での採用活動、研修会の共同開催など）
2. 資材・備品・福祉用具等の共同購入によるコスト削減
3. 経理・総務といった事務部門の共同化
4. 利用者送迎業務の共同化・相互委託
5. ICTシステムやソフトウェア等の共同導入・活用
6. 災害時や感染症発生時における相互支援体制の構築
7. 協働化には関心はない
8. その他（ ）

問13 （問12で「7. 協働化には関心はない」以外を選んだ方へ）他の事業所との協働化を進める上で、課題や障壁になると考えられることは何ですか（〇はいくつでも）

1. 連携を主導したり、調整したりする主体（組織やリーダー）がいない
2. 経営理念や方針が合う連携相手を見つけるのが難しい
3. 自社の経営状況やノウハウを他社に開示することへの抵抗がある
4. 連携のための協議や調整を行う時間的・人的な余裕がない
5. 協働化による具体的なメリットや費用対効果が不明確
6. 利用者や職員の奪い合いなど、競合関係になってしまう懸念
7. その他（ ）

問14 5年～10年先を見据えた事業の継続や事業承継について、現時点でのお考えに最も近いものを1つお選びください（〇はひとつ）

1. 現在の経営体制のまま事業を継続していく予定である
2. 親族内承継や従業員への承継を考えている
3. 後継者がおらず、事業承継の方法を検討・模索している
4. 選択肢の一つとして、第三者への事業譲渡や他法人との合併も視野に入れている
5. 事業の縮小や廃止（撤退）もやむを得ないと考えている
6. その他（ ）

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

第10期米子市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための高齢者のサービス提供体制の構築に向けた介護事業所アンケート調査結果報告書

発行 令和7年12月

編集 米子市 長寿社会課